

藤原三代が東北の地に築いた極楽浄土の庭である。作庭記の中の島姿の様々をいう事の条で「千潟様は汐の干あがりたる跡の如く半ば現れ、半ば水に浸るが如くにして、自ら砂々見ゆべきなり。樹はあるべからず。」とあり、海岸の風景として、干潮時に島が海上に現れた様を再現している。



亀が蓬莱山を背負っている最古の亀島であろう

日本は島国である。このような手法は全国の庭園で繰り返し表現されている。この広大な池泉舟遊式庭園は、東北地方にあったため壊されることなくほぼ原形をとどめている。倒れている鋭い巨石が屹立しているさまを想像する。

当庭園は極楽浄土を現した形が残り、且つ作庭記風の庭であり、非常に貴重な文化遺産だ。栗石の洲浜、蓬莱山を背負った亀出島、遣水があり、また護岸にも石組の萌芽がみられ大変興味深い。



出島と須弥山



干潟模様の出島 美しい曲線と水位の上下によって生ずる干潟模様



Z字型の遣水



